

評価シート（年度評価）

稲永公園野鳥観察館の管理運営状況

1 基本情報

<所管局：緑政土木局>

指定管理者名	東海・稲永ネットワーク		
主な業務内容	野鳥の観察、野鳥保護に関する相談及び指導等		
評価対象期間	令和4年4月～令和5年3月	指定管理期間	平成30年4月～令和5年3月

2 評価結果

評価項目			評価区分	特記事項
管理体制	1 管理体制	適切な職員配置	◎	専門的な知識のある職員を複数名常駐させるなど、仕様に定められた以上の管理体制を整えていた。専門的な知識を要する死亡野鳥の確認など鳥インフルエンザの対応にも協力頂いた。野鳥及び藤前干潟の知識について今後の職員間の人材育成の計画を整え、次世代に継承する体制を整えていた。
		緊急時の体制	○	
		人材育成	◎	
維持・管理運営等	1 維持管理	館内清掃	◎	仕様・計画に定められたものに加え、利用状況に応じ確認・点検・清掃・小修繕等を実施していた。今年度は、誘導灯及び非常警報設備の更新を実施した。また、新型コロナウイルス感染症対策として、消毒・換気等を定期的に行うとともに、特に望遠鏡のような消毒作業の難しい精密機械に対しても、来館者の共有する部分の感染防止対策を工夫し実施した。今年度はラムサール条約登録20周年の年であり、藤前干潟に関連する市民団体や他施設と協働し、記念イベント等多く開催・共催した。特に「藤前干潟汚濁クリーン大作戦実行委員会」では事務局を務め、施設業務以外にも活動運営に尽力した。
		建物・設備の管理	◎	
		保守・点検・小修繕	○	
		管理水準の維持	◎	
		関係書類の調製・保管	○	
		市民との協働による活動	◎	
	2 運営管理	利用者アンケートの実施	◎	利用者ニーズをアンケートや意見箱から把握・分析し、要望が多い野鳥飛来状況の情報提供（館内掲示・ブログSNS掲載）に尽力していた。また、渡り鳥が多い時期は、干潮時間に合わせて開館時間を早める対応を行っていた。
		利用者ニーズの把握と反映	◎	
		接客・接遇向上の取組	◎	
		苦情・要望に対する適切な処理	○	
		個人情報の適切な管理	○	
	3 魅力増進・利用促進	創意工夫した施設管理	◎	利用者ニーズに合わせた管内掲示・展示を行うと共に、今年度大型モニターを導入し、イベント時や団体利用時に多くの参加者と野鳥について共有し、より詳細な動画の閲覧等ができるよう工夫されていた。利用者への広報・情報提供として、写真・動画を多用した野鳥飛来状況や行事予定を掲載したブログ「観察館日記」に加え、SNS(Twitter)において写真・動画を多用した野鳥飛来状況や行事予定の情報発信を行い、利用者への広報・情報提供を積極的に行っていた（ブログ年間188回、Twitter年間523回投稿）。また今年度より市公式LINEでの広報を行うための資料提供を行い、様々な世代に対し広く情報発信に努めた。
		利用者への広報・情報提供の実施	◎	
		野鳥保護行事の開催	◎	
	4 施設特有の管理	野鳥の観察、野鳥保護に関する相談及び指導	◎	専門知識を持つ職員を配置し、豊富な観察経験と知識に基づき来館者や電話での問い合わせに対して、指導・相談を丁寧に行った。
		野鳥保護に関する資料収集と提供	○	
	5 自主事業	事業計画に基づく自主事業の実施	◎	ブログ「観察館日記」の充実やSNS(Twitter)の活用など、市民に対して野鳥や野鳥の観察地である藤前干潟の魅力を伝えるのに努めていた。特に藤前干潟ラムサール条約締結20周年記念事業において、野鳥観察館はメイン施設として環境局や近隣施設と調整・連携を積極的に行い、市との調整も適切に行った。報道番組や同区内の田んぼアートにも協力し、施設のPRのみならず野鳥保護の啓発まで率先して行った。
		集客対策への効果	◎	
	6 自主事業	現金等の取扱い	○	現金、関係書類等について適切に取扱われていた。
		関係書類の調整・保管	○	
自己評価	1 自己評価	入館者数の目標達成	△	新型コロナウイルス感染拡大防止で昨年度から引き続き団体利用少なかった事で、年間目標を達成することはできなかったが、バードウォッチング需要の増加やSDGsへの関心の高まりから、一般来客数はコロナ禍以前より増加となった。
		法令・協定の遵守	○	
		事業計画との比較分析	○	

【総合評価】

入園者サービス、及び教育普及活動としての情報発信も力を入れ、一般入館者数が3年度に大幅増を達成、4年度も維持している点。ブログに加え、新たにSNSを活用した丁寧な情報発信等ニーズにあわせた細やかな情報提供の効果が出ている点。真摯な姿勢で業務に取り組み、施設運営だけでなく藤前干潟全体の活動の中心となり、活動されたことについて評価できる。

施設の現状

稲永公園野鳥観察館

施設の現状	施設概要							
	市民を対象に、野鳥観察及び野鳥保護に関する知識並びに自然保護に関する意識の高揚を図ることを目的に設置された施設です。 藤前干潟の水鳥を観察するために、望遠鏡30台を設置し、野鳥の観察、野鳥に親しむ各種イベント、野鳥の保護に関する相談・指導、資料の展示、書籍の販売を行っています。							
	市の収支状況(千円)（4年度決算(見込)額）							
	支出			収入				
	指定管理料	その他	計	使用料	その他特定財源	一般財源	計	利用料金
	8,939		8,939		402	8,537	8,939	-
	特記事項							
管理運営指標の状況	取組状況							
	指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	利用者数		人	28,818	20,915	29,042	29,650	
	来園者満足度アンケートで良かったと回答した割合(来園者アンケートによる)		%	82	76	95	90	
	利用者1人当たりの運営費		円	306	422	304	302	
	特記事項							
	干潟の野鳥観察に適した渡り鳥の飛来時期の干潮時間帯には、団体利用予約が重なって受け付けられないこともあり、来館利用者数には限度があるが、来館せず機材を持参して干潟の野鳥を観察・撮影する人に向けても、ブログやホームページに加えSNSを活用し、問合せ対応など広く情報提供を行っている。隣接施設と連携した取り組みやイベント開催及びイベント出店を行う中で、特に令和4年度はラムサール条約登録20周年の年であり、藤前干潟に関連する市民団体や他施設と協働し、記念イベント等多く開催・共催。特に「藤前干潟干潟クリーン大作戦実行委員会」では事務局を務め、施設業務以外にも活動運営に尽力した。区役所・農政等とも連携し、野鳥観察をまだ行っていない一般客向けにも藤前干潟・野鳥観察のPR活動を進めている。また継続的な情報発信で、野鳥や野鳥観察館についてのPRに励んでいる。							

※支出のうち「その他」欄は、経常修繕費等を記載